

— 酒類食品業界卸店メーカー —  
— 企業間標準システム —

— 受発注システム —  
— 出荷案内システム —  
— 販売実績報告システム —

— 第一版 —

昭和60年5月

卸店・メーカー懇談会

— 目次 —

第一章 はじめに .....	1
I 受発注システムとは .....	1
II 出荷案内システムとは .....	1
III 販売実績報告システムとは .....	1
第二章 運用基準 .....	2
I システム運用の為の共通基準 .....	2
(1) オンラインの場合のネットワーク .....	2
(2) トラブルと対策 .....	5
(3) 機密保護 .....	5
(4) 使用する商品コード .....	5
(5) 使用する得意先コード .....	5
(6) コードの運用について .....	5
(7) 実施のためのステップ .....	6
(8) 約束事の文書化 .....	6
(9) 連絡窓口 .....	6
(10) 費用負担について .....	6
II 受発注システム運用基準 .....	7
(1) 処理の手順(機器の接続) .....	7
(2) 発注側・受注側の管理体制 .....	9
(3) 運用日時について .....	9
(4) 取消訂正の手順 .....	9
(5) 在庫切れ時の対応 .....	9
(6) サービスレベルの標準 .....	9
III 出荷案内システム運用基準 .....	10
(1) データの受け渡し方法 .....	10
(2) データの利用目的 .....	11
(3) データの提供サイクル .....	11
(4) データの訂正方法 .....	12
(5) データの範囲 .....	12
(6) 実施のためのステップ .....	12
IV 販売実績報告システム運用基準 .....	13
(1) データの受け渡し方法 .....	13
(2) データの利用目的 .....	14
(3) データの提供サイクル .....	14
(4) データの範囲 .....	15
(5) 実施のためのステップ .....	16
(6) 約束事の文書化 .....	16

第三章 標準フォーマット.....17

I 受発注システム.....17

- (1) レコード長/テキスト長.....17
- (2) レコードの種類.....17
- (3) 制御用電文.....18
- (4) 取引形態による使用フォーマット.....20
- (5) レコード伝送イメージ.....21
- (6) 送信元・最終・直接送信先の関係.....22
- (7) 年号.....23
- (8) 日本語の使いかた.....23
- (9) 使用条件およびフォーマット表中の条件欄.....23
- (10) フォーマット用語の説明.....23
- (11) 項目説明.....24
- (12) レイアウト.....40

II 出荷案内システム.....49

- (1) レコード長/テキスト長.....49
- (2) レコード作成イメージ.....50
- (3) 項目説明.....51
- (4) レイアウト.....64

III 販売実績報告システム.....65

- (1) レコード長/テキスト長.....65
- (2) レコード作成イメージ.....66
- (3) 項目説明.....68
- (4) レイアウト.....72

検討企業一覧表.....75

## 第一章 はじめに

この運用基準書は、卸店・メーカー間において、企業間システムを実施するにあたり、両社間での運用をスムーズに行う事と、システムを標準化する事により流通業界の合理化がすすめられる様にと決められたものである。

この基準書の項目は、標準化のためのチェックポイントとして活用し業界標準システムの構築に役立つ事を期待する。

### I 受発注システムとは

発注者・受注者の間の注文内容を、従来の電話によるものや、伝票によるものから、コンピュータによる媒体（特に、オンライン）によるものに変え、双方の事務の効率化、注文にかかわる時間の短縮、及び人間によるミスの防止を狙いとするシステムである。

### II 出荷案内システムとは

受注者から発注者への納品内容を、従来の伝票によるものから、コンピュータによる媒体（オンライン又はその他の磁気媒体）によるものに変え、双方の事務の効率化、（受注者は伝票作成伝票送付、発注者は納品伝票の確認等）及び人間によるミスの防止を狙いとするシステムである。

### III 販売実績報告システムとは

従来、卸店よりメーカーへの販売実績報告は帳票類（実績報告書）によって行われているのが多い、又個別の企業どうしで合意の上磁気媒体による交換が一部行われており、方式（フォーマット、コード、運用）の標準化をねらいとしたのがこのシステムである。

## 第二章 運用基準

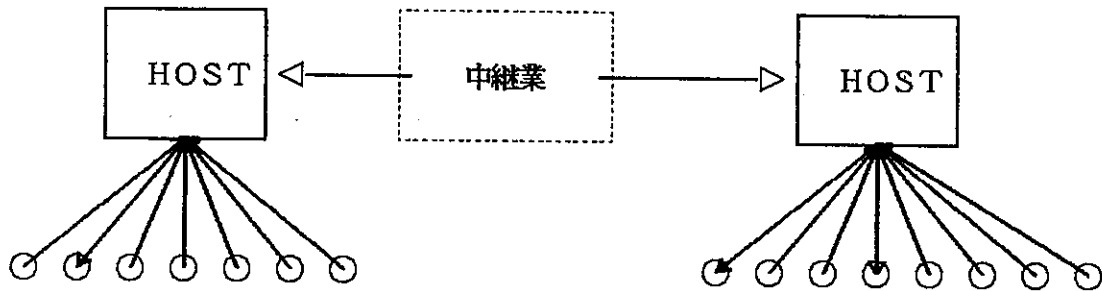
### I システム運用の為の共通基準

#### (1) オンラインの場合のネットワーク

以下にネットワークの構築方法とそれぞれの特徴を挙げるので双方検討のうえネットワークを決定する必要がある。

- ・送受信方法 オンラインには当面J-手順を使用し、更に今後よい手順が出現すれば推薦し使用してゆく。

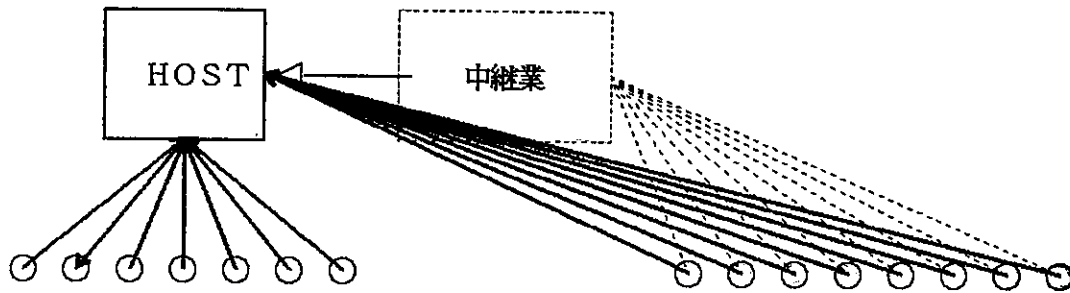
#### 1) ホスト ←→ ホスト



#### 特徴

設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>①双方の電話設備の回線数が少なくすむ。</li> <li>②J-手順のプログラムは双方一ヶ所ずつあればよい。</li> </ul>
データ量	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一回あたりの送受信件数が多く頻度は低くなる。</li> <li>②一回あたりの送受信件数が多い為再送が困難である。</li> </ul>
距離/ コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ホストがある場所は殆ど主要都市にあり、地域卸とシステム化する場合回線費用がかかる。</li> <li>②運用のための人員が双方少なくすむ、トラブル発生の極小化がはかれる。</li> </ul>
リードタイム/ 物流形態 (受発注システム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発注者側内で端末とホスト機との間でデータの伝送をする必要があるため、時間がかかる。</li> <li>受注者側でも同様の事が言える。</li> <li>②受注者側ホスト内で効率的な配送形態がとれる。</li> </ul>
受信者側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①標準フォーマットより、自社フォーマットに変換するためのプログラムが必要なのはホストのみであり、管理が容易である。</li> <li>②相手にする、コンピュータが少数に限定出来る為、運用が簡素化できる。</li> </ul>
発信者側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①標準フォーマットに変換するためのプログラムが必要なのはホストのみであり、管理が容易である。</li> <li>②発注番号の管理が一括管理できる。(受発注システム)</li> <li>③相手にする、コンピュータが少数に限定出来る為、運用が簡素化できる。</li> </ul>

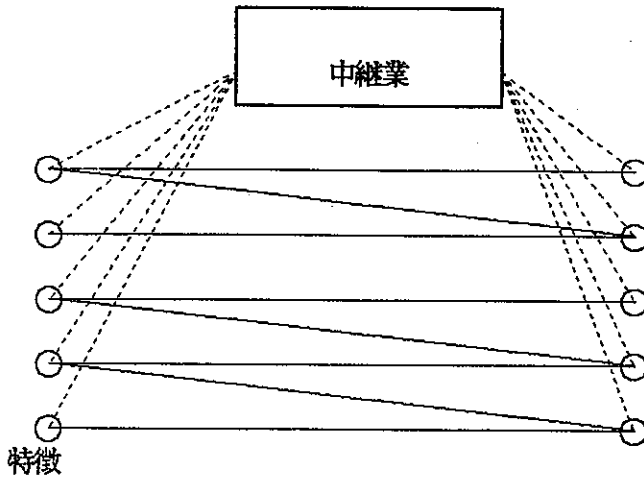
2) ホスト ←→ 端末



特徴

設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>①端末側出先単位に公衆回線・J 一手順プログラムが必要。</li> <li>②端末側は自社ネットワークと重複投資になる場合がある。</li> </ul>
データ量	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一回あたりの送受信件数が少なく頻度が高くなる。</li> <li>②一回あたりの送受信件数が少ない為再送が容易である。</li> </ul>
距離/ コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>①端末側は運用のための人員が多くなり トラブルの原因にもなる。</li> </ul>
リードタイム/ 物流形態 (受発注システム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ホスト-ホストに比べて発注側ホストに伝送する時間が省ける ので、締め時間ギリギリまで入力できる。</li> </ul>
受信者側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①標準フォーマットより、自社フォーマットに変換するためのプログラムが必要なのはホストのみであり、管理が容易である。</li> <li>②相手にする、コンピュータが多数になるため、運用が煩雑になる</li> </ul>
発信者側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①端末毎に標準フォーマットに変換するためのプログラムが必要。</li> <li>②発注番号の管理が出先単位でバラバラになる。 (受発注システム)</li> </ul>

3) 端末 ←→ 端末



設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>①双方出先単位に公衆回線・J 手順プログラムが必要。</li> <li>②自社ネットワークと重複投資になる場合がある。</li> </ul>
データ量	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一回あたりの送受信件数が少なく頻度が高くなる。</li> <li>②一回あたりの送受信件数が少ない為再送が容易である。</li> </ul>
距離/ コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>①出先どうしのため距離が近い為電話代が安くなる。</li> <li>②運用のための人員が双方多くなり、トラブルの原因にもなる。</li> </ul>
リードタイム/ 物流形態 (受発注システム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①出先どうしのため締め時間等に融通がきくので、はやく納品出来る可能性がある。</li> </ul>
受信者側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①端末毎に標準フォーマットより、自社フォーマットに変換するためのプログラムが必要。</li> <li>②相手にする、コンピュータが多数になるため、運用が煩雑になる。</li> </ul>
発信者側の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①端末毎に標準フォーマットに変換するためのプログラムが必要。</li> <li>②発注番号の管理が出先単位でバラバラになる。(受発注システム)</li> <li>③相手にする、コンピュータが多数になるため、運用が煩雑になる。</li> </ul>

(2) トラブルと対策

1) ハード

- ① 手入力による出荷対応も出来る様体制を整える。
- ② 入力のために時間を要するため、締め時間等変更する場合もありえる。
- ③ 事情により双方の営業間で検討する必要がある。
- ④ 業務に支障をきたす場合は担当者間で磁気媒体(MT 等) にて提供をするかいなかをきめる。

2) データ

- ① 他受注者のデータが来た。
  - ・ 回線を閉鎖する。
- ② データが読めない。(システム変更時のトラブル)
  - ・ 受注者のシステム担当が、発注者システム担当者に連絡し、対処をきめる。
- ③ データの必須項目がうまっていない。
  - ・ データ準備時にフォーマットの必須項目を確認しテストを充分行う。
- ④ コードにアンマッチがある。
  - ・ 発注データ作成時にコードの管理ファイルを参照し、アンマッチがでない様確認をする。
- ⑤ データの出し手側は再作成出来る様考慮しておく。

3) 運用

データのやりとりの確認方法は双方でデータの一覧表をとり、もし万一送受信データに食い違いが発生した場合にその一覧表を読み合わせる事により問題解決出来る事を義務付けることとする。

(3) 機密保護対策

1) オンラインの場合

- ① パスワードを設定し、パスワード相違が発生した場合は回線を閉鎖してデータの漏れをガードする。
- ② パスワードについては双方が責任をもって厳重な管理を行う必要がある。また、パスワードの設定についても慎重に決定する必要がある。

2) 磁気媒体の場合

- ① 誤配については読み込み時に自社のデータであるかいなかのチェックを行い、他社のデータである場合は速やかに提供者に連絡し、そのデータは一切使用を禁止する。

3) 中継センターの場合

- ① 中継センターは機密を守る。

(4) 使用する商品コード

- 1) 商品コードは、業界統一コードが運用されている場合には統一コードを使用することとし、商品名カナを補完するオプションレコードは確認の為に使用する。

(5) 使用する得意先コード

- 1) 得意先コードは、業界統一コードが運用されている場合には統一コードを使用することとし、得意先名カナを補完するオプションレコードは確認の為に使用する。

(6) コードの運用について

- 1) コードセンターの登録手続き 統一コードセンター加入会社対象同志の場合はコードセンター運用基準にのっとり運用する。



- ・新規得意先コードの連絡方法は、卸店担当者が事前にコードセンターに登録の連絡をし、コードセンターよりオンラインで加盟企業に連絡される事が望ましい。
- ・商品コードの取得は、発売企業担当者が事前にコードセンターに登録の連絡をし、コードセンターよりオンラインで、加盟企業に連絡される事が望ましい。

2) コードの登録は受発注に支障のない様、双方充分余裕をみて行うこと。

3) アンマッチコードの扱い

- ・データの中にアンマッチの商品コード又は、得意先コードが発生した場合は、早期改善のための検討を双方でおこなう。

#### (7) 実施のためのステップ

システム導入にあたって受発注者双方で下記のような基本的作業項目を検討し稼働のためのソフトウェア、ハードウェア及び運用の方法について、詳細の詰めを行う。

1) オンラインの場合

- ・伝送手順をはじめ、伝送のための仕様詳細を発注者との間でとりきめる。
- ・データを受け取る拠点と発注者側との伝送経路を決定。
- ・オンライン ダウンリカバリーの方法の決定。
- ・機器メーカーを含めた調整。
- ・回線申請。
- ・その他。

2) オフラインの場合

- ・受け渡し媒体とその仕様を決定。
- ・受け渡し方法の決定。
- ・ハードウェア上の整合性の確認。
- ・その他。

3) 共通事項

- ・マスター登録。
- ・オプション機能採用の有無。
- ・データ受け渡し時間帯の決定。
- ・連絡先等運用方法のルール化。
- ・スケジュール調整。
- ・その他。

#### (8) 約束事の文書化

運用基準書の内容により、双方の確認事項を明文化しておく。

#### (9) 連絡窓口

各企業担当窓口を明確にしてスムーズな運営を目指しトラブル発生時に協力して解決にあたる。

- ・システム内容の詳細の打合せ。
- ・システム変更時の打合せ。
- ・データ項目の内容についての問い合わせ。
- ・トラブル発生時の原因究明、対策実施。

#### (10) 費用負担について

費用負担については双方にて協議調整する。

## II 受発注システム運用基準

### (1) 処理の手順 (機器の接続)

#### 1) 伝送手順について。

発注者・受注者所有の自社機器を直接オンラインで接続するものとする。  
但し、まれな例として、データ量が多い、近距離等、条件がそろえば磁気媒体渡しでもかまわない。

#### 2) 送受信方法。

オンラインには、当面J-手順を使用し、発注者側起動で注文データを送るものとする。但し、今後更により手順が出現すれば推薦し、使用してゆく。

参照「流通情報オンラインデータ交換システム  
標準伝送制御手順J-手順仕様書」

#### 3) 参考

	比較項目	受注者側から見た点	発注者側から見た点
発 注 者 起 動	①回線の効率性	①締め時間帯に受信が殺到するので、回線を余分に準備する必要があり効率的では無い。	①発注データを作成した都度送信出来るので回線効率は非常に良い。 ②現在では、起動側に回線費用がかかる。
	②システムのトータルコスト	①受信ファイルが大容量になる ②回線をピーク時にあわせて準備する必要がある。	①発注ファイルは送信する都度作成すればよいので、小容量で済む。
	③スケジューリング	①呼出集中により回線混雑の恐れがある。 ②締め時間だけ管理すればよく個々の送受信を管理する必要は無い。	①発注データを送信したくても話中の確率が高い。 (受注者の回線数による。) ②受注者別の締め時間にあわせて送信する必要があり、管理が複雑になる
	④オペレーション	①オンラインを立上げておくだけで、特に作業は無い。	①自社の意志通りコントロール出来る。
	⑤機密保護	①他企業向けのデータが着た時には、回線を閉鎖しなければならない。	①手動でダイヤルする場合は誤ダイヤルの危険性がある。
	⑥再要求への対応		①発注データをフロッピーに作成する場合は保存・消去のルールが難しい。

	比較項目	受注者側から見た点	発注者側から見た点
受 注 者 起 動	①回線の効率性	①回線を連続的に使用するの 無駄が無く効率的。 ②現在では、起動側に回線費用 がかかる。	①締め時間に発注者より引き取り が殺到するため回線効率は 非常に悪い。
	②システムのトータル コスト	①受信ファイルが大容量になる	①送信ファイルをメーカー別に 作成する必要があるため容量が 大きくなる。 ②回線をピーク時にあわせて 準備する必要がある。
	③スケジューリング	①発注者側の回線本数が少ない と呼出集中により回線混雑の 恐れがある。 ②発注データを受信したくても 話中の確率が高い。 (発注者の回線数による。)	①受注者別の締め時間にあわせて ファイルを準備する必要があり 管理が複雑になる
	④オペレーション	①慎重なスケジューリングの 上、順番に引き取る必要が ある。	①送信ファイルの容量が少ない 場合は操作が複雑になる。
	⑤機密保護	①自動でダイヤルする事が 通常であるので誤ダイヤルの 危険はない。	①他受注者よりの引き取りに 関して、機密保護は慎重で なければならない。
	⑥再要求への対応		①発注データをフロッピーに 作成する場合は保存・消去の ルールが難しい。

(2) 発注側・受注側での管理体制

- 1) 受注者拠点毎に伝送の正常終了異常終了を確認
- 2) 受注者拠点毎の受信件数の把握
- 3) オンライン完了拠点と未完了拠点の状況把握
- 4) 受信したデータの正当性についてのチェック
- 5) 発注者側では添付のファイルレイアウトの各項目の条件欄に基づきデータの作成を行いこの項目が満たされている事を確認のうえ実施すること。

(3) 運用・日時について

営業レベルで次の項目につき事前に確認しあい、稼働/非稼働を決定する。

- 1) 受注締め時間
- 2) 休日の問題
- 3) 特別休日について

例

12時締めの翌日出荷 土曜/日曜/祝祭日は運用しない。 事前にカレンダーを取り交わす。
---

- 4) 先付けデータが何日まで許されるか決定しておく。

(4) 注文の取消訂正の手順

- 1) 連絡/問い合わせ先は、事前に決定する事とする。
- 2) 発注者よりの電話での取消/訂正に対し、受注者では対応出来るようにしておく  
又、追加についても同様の機能を持っておく。
- 3) 取消/訂正の連絡の締め時間は、別途企業別に設定するものとする。

(5) 在庫切れ時の対応

品薄商品/季節商品/限定商品/キャンペーン商品に関しては注文をもらっても在庫切れが発生し、出荷出来ない場合、及び商品コードの決定の仕方が適切でないため、出荷出来ない場合が発生する。  
この場合は営業レベルで調整する。

(6) サービスレベルの標準

- 1) 最低ロット基準。受発注システム実施にあたり、受発注者双方で最低ロット基準を決定し、発注者は、その基準を守って発注する。
- 2) 地域別にリードタイムを決定するものとする。

### Ⅲ 出荷案内システム運用基準

(2)

#### (1) データの受け渡し方法

出荷案内データは受発注データと比べ下記の点で異なるのでシステム決定にあたっては充分考慮する必要がある。

- (イ) 一括処理情報である。
- (ロ) 受発注システムに比べて緊急性が低い。
- (ニ) 情報項目（カナ文字情報）が多い。
- (ホ) 取引確定データである。

#### 1) 磁気媒体での特徴

- (イ) 大量データ処理が容易である。
- (ロ) 設備投資が少なくすむ。
- (ハ) 運用コントロールが容易である。
- (ニ) デリバリー手段を考慮する必要がある。
- (ホ) 媒体仕様の調整が必要である。

(3)

#### 2) オンラインでの特徴

- (イ) リードタイムが短い。
- (ロ) 遠距離でも同一サービスレベルの提供が受けられる。
- (ハ) 相手側が多いとコントロールが繁雑となる。
- (ニ) 現時点ではデータ処理コストが割り高となる。

#### 3) 中継センターの機能

- (イ) 受け渡し手段の調整（媒体・オンライン・その他）が出来る。
- (ロ) データの取りまとめ及び仕訳（複数HOST・複数端末）が出来る。
- (ハ) デリバリー機能（媒体）がある。
- (ニ) オプション機能がある。

では

(2) 出荷案内データの利用目的

利用者は出荷案内データを下記の業務に利用し、事務の合理化を計る事が出来る。

- 1) 直送売上請求データの作成
- 2) 得意先へのお荷案内書（データ含）の作成
- 3) 為替手形付取引の入金データ自動作成（一部企業）
- 4) 割戻しデータの自動作成（一部企業）
- 5) 直送仕入データの作成
- 6) 請求支払照合データの自動作成（一部企業）
- 7) 自社倉入データとの照合

提供者は出荷案内データを提供する事により、下記の事が出来る。

- 1) 出荷案内書を廃止する事が出来る（業態による）

(3) データ提供サイクル

- 1) 利用者での実績把握・請求処理をより早くする為、原則としてディリーで行い出荷日を含め3日以内に提供する。
- 2) 年末・年始・休日の扱いは双方のシステム稼働日を1ヶ月前に文書で確認・対処する。

(注) (イ) 請求締日最終データの提供日を明確にする。

(ロ) 一日分のデータが2日に分かれて提供される場合がある。

(ハ) 一括データ（何日間かのデータをまとめる）の提供もありえる。

(ニ) 利用者との休日が合わない場合は提供者で対処する。

(4) データの訂正方法

日付・モレ・ダブリ等の多量のミスが発生した場合は直に利用者に連絡し、その対処方法を明確にする。利用者においても対応できるシステムを構築しておく。

1) 取引先コード

提供者は利用者の請求先迄のコード化を原則とする。

未登録・登録ミスが発生した場合は直ちに提供者に連絡し、そのデータは利用者で矯正する。

2) 商品コード

提供者での登録ミスが発生した場合は直ちに担当者間で訂正方法を定める。

3) その他

利用者で帳合店・取引先・商品・数量・単価・出荷区分等に誤が発見された場合は提供者に連絡し、提供者が責任を持って赤・黒（伝票単位の取消データと訂正データ）訂正を行い、そのデータの受取日を明確にする。（二重訂正の防止）

(5) データの範囲

全取引データを対象とするが下記項目について提供の可能・不可能を明確にする。

- 1) 地域 ----- 全国・特定地域
- 2) 事業所 ---- 全事業所・特定事業所・特定出荷倉庫
- 3) 品種 ----- 全品種・特定品種・特定商品
- 4) ルート ---- 取引形態（帳合店通し・ルートセール）
- 5) 取引内容 -- 倉入・直送・一斉出荷・特殊条件

(6) 実施ステップ

1) テスト段階

(イ) 出荷案内書との詳細チェック

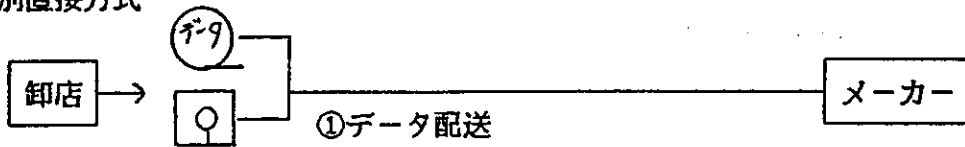
IV 販売実績報告システム運用基準

(1) データの受け渡し方法

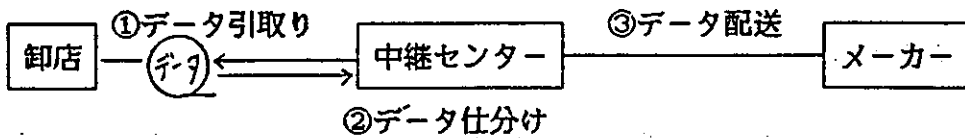
- 1) 磁気媒体、又は、オンライン
- 2) 個別直接方式、又は、中継センター方式
- 3) 卸店企業一括提供、卸店事業所単位提供 (極力 卸店企業一括提供が望ましい)

A. 磁気媒体

個別直接方式

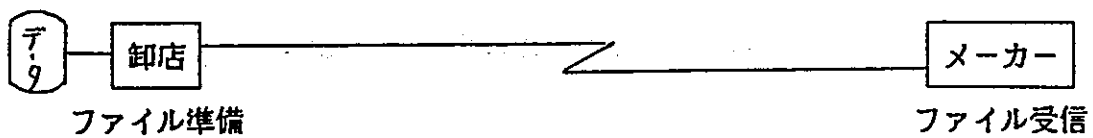


中継センター方式

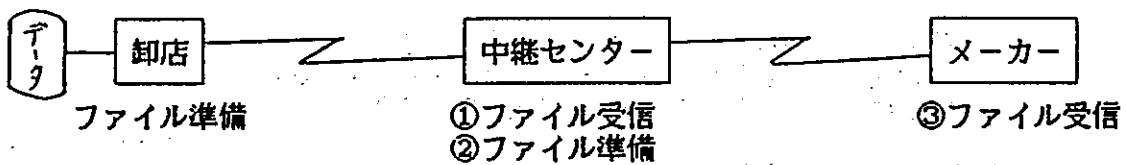


B. オンライン

個別直接方式



中継センター方式





(2) データの利用目的

1) 諸契約の実績として活用

期間契約費、販促費、割戻等の算出基礎

2) マーケティングデータとして活用

- ・実績進捗管理 地域別、企業別、店舗別、商品別
- ・商談
- ・販売対策立案
- ・新製品動向把握

(3) 提供サイクル

メーカー・卸店双方の為に、直販体制をとっていないメーカーとしては製品動向の把握、きめこまかい営業活動、量販店との販促計画立案等の為により早いタイミングでデータ提供が望まれる

1) 集計データ

商品別、相手先個店別のデータを、定番特売等区分して月間集計したデータ  
サイクル 毎月10-13日に前月データを提供

2) 日次データ

日別商品別相手先個店別詳細データ

サイクル

- ①月次 毎月10-13日に前月分を提供
- ②旬次 月3回に分けて5日後に旬間データを提供
- ③日次 オンライン方式3日後程度で提供

年度末、年末年始の提供スケジュールについては当事者で打ち合わせる

#### (4) データの範囲

各企業間相互の関係の中で取り決められる事ですが、一応の目途として

##### 1) 地域

全国、支店単位、特定地域など

##### 2) 店

全店、特定店、企業単位、店舗単位など

##### 3) 品種

全品種、特定品種

##### 4) 内容

- ・倉出し分、メーカー直送分
- ・定番、特売
- ・集計データ、日別データ

データの範囲については、基本的には、利用者側の要望を基に、当事者間で具体的に  
取り決める事。

## (5) 実施ステップ

### ( ) テスト段階

- ・卸店からテストデータと別途照合できる実績ハードコピーを受ける。
- ・メーカーの社内システムで、データ処理をし結果について詳細に精査する。

### (注1) 取引先、商品コードについての必要項目

取引先……取引先コード、名称、所在（住所）、所属支店（営業所）、  
業種・業態等内部属性コード、チェーンコード

商品……商品コード、名称、容量、入数、内部分類コード、（仕入価格）

### (注2) データ提供媒体仕様

- ・媒体の種類 磁気テープ、フロッピーディスク
- 記録密度、サイズ（ロング、ハーフ）、内部記録コード（EBCDIC）、ラベル（標準）、バリディチェック（奇数）、BLKSIZE、ボリューム（MT本体に張るラベルシートに記載、回転するMTに通番を付与）

## (6) 約束事の文書化（契約書、覚え書き）

企業間で打合せた約束事を確認する意味で文書化が望ましい

### 確認事項

- (1) データ交換内容
  - 対象データ
  - 対象企業
  - 集計単位
  - 提供媒体
  - 指定期間
- (2) 提供日
- (3) 受渡方法
- (4) データ守秘義務
- (5) 天変地異
- (6) 実施期間
- (7) 覚書有効期間

## Ⅰ. レコード長／テキスト長

- 1 レコード長……128バイト
- 2 テキスト長……J手順では128バイトと256バイトがあるが応答時間等を考えると256バイトが望ましい

## Ⅱ. レコードの種類

- 1 ファイルヘッダーレコード（必須）……レコード区分 1  
各ファイルの先頭に付けられ、ファイルの送信先、発注先、発注元の情報を入れ、日付等該当送信ファイルの属性を明確にするためのレコードである  
1ファイルに1件作成され、1制御電文中に複数個もありうる
- 2 伝票ヘッダーレコード（必須）……レコード区分 2  
1ファイルの中には、何枚分かの発注伝票データが含まれる  
また伝票ヘッダーは、1伝票分の明細行を除く出荷伝票作成のために伝達される情報が含まれる
- 3 伝票ヘッダーオプションレコード（任意）……レコード区分 3  
伝票ヘッダーレコードの補足をするもので、システム運用開始から一定期間および統一コード未運用地域の場合、発注者、受注者双方確認の上使用する
- 4 明細行レコード（必須）……レコード区分 4  
発注商品の明細を表わすレコードで、1レコード中に3行分入れられる
- 5 明細行オプションレコード（1）（任意）……レコード区分 5  
明細行を補足するレコードで、システム運用開始および新商品発売から一定期間並びに統一商品コード未設定の場合の品名を表わす

### 第三章 標準フォーマット

```
*****  
*                                           *  
*                                           *  
*           受発注システム                   *  
*                                           *  
*                                           *  
*****
```

- 6 明細行オプションレコード(2)(任意)……レコード区分 6  
明細行を補足するレコードで、チェーンストア統一伝票(タイプ用・ターンアラウンド用)プリントのための編集済みデータに使用
- 7 メッセージオプションレコード(1)(任意)……レコード区分 7  
チェーンストア統一伝票(タイプ用・ターンアラウンド用)プリントのための備考欄用のデータで、明細行オプションレコード(2)を使用するときは配慮をする必要がある
- 8 メッセージオプションレコード(2)(任意)……レコード区分 8  
チェーンストア統一伝票(タイプ用・ターンアラウンド用)プリントのための備考欄用のデータで、明細行オプションレコード(2)を使用するときは配慮をする必要がある
- 9 ファイルエンドレコード……レコード区分 9  
磁気媒体によるデータ交換の際に使用する、フォーマットはファイルヘッダーレコードと同一でレコード区分に‘9’を入れ、項番19--送信データ件数欄に必要情報をセットする  
尚、データ件数にはファイルエンドレコードもカウントする

### III. 制御用電文

#### 1 起動側受信用

制御用電文は、開始要求電文、再送要求電文、終了要求電文、終了電文の4種類があり、全て同一フォーマットを使用し、データ項目内の要求区分を変えて区別する

##### ① 開始要求電文(起動側→相手)

送信ファイルの最初から要求する場合

##### ② 再送要求電文(起動側→相手)

送信ファイルの途中から要求する場合で、再開ポイントとしてデータ項目内のデータカウント(1)を使用

- ・データカウント(1)は起動側で受信済の件数を示す
- ・相手側はデータカウント(1)+1のデータより再送信する

③ 終了要求電文（起動側→相手）

受信中に起動側から送信の中断を要求する場合で、データ項目内のデータカウント（1）に受信済の件数を示す

④ 終了電文（相手→起動側）

伝送の終了する時点でセンター側からの送信件数等を起動側へ送信する

- ・データカウント（1）は既送信の全件数を示す
- ・データカウント（2）は当日送信の全件数を示す

尚、異常終了の時は制御電文中の処理区分に次の表示をして回線を切断する

NG：パスワード異常時

NO：該当送信ファイルに情報なし

ST：その他、送信側異常

2 起動側発信用

制御用電文は、開始要求電文、再送要求電文、開始承認電文、終了要求電文、終了確認電文、終了電文の6種類があり、全て同一フォーマットを使用し、データ項目内の要求区分を変えて区別する

① 開始要求電文（起動側→相手）

起動側より送信開始要求をする場合

② 再送要求電文（起動側→相手）

起動側より再送開始を要求する場合、データカウント（1）に送信済件数を示す

③ 開始承認電文（相手→起動側）

受信側のデータ受信の可否状態を処理区分に表示し起動側へ送信する

異常時は処理区分に次の表示をして回線の切断を要求する

NG：パスワード異常時

ST：その他受信側異常時

再送開始承認時データカウント（1）に受信済件数を示す

④ 終了要求電文（受信側→起動側）

受信側がデータの受信中に起動側からの送信の中断を要求する場合

データ項目内のデータカウント（1）に受信済の件数を示す

⑤ 終了電文（起動側→受信側）

伝送の終了する時点で起動側からの送信件数等を受信側へ送信する

- ・データカウント（１）は既送信の全件数を示す
- ・データカウント（２）は今回送信の全件数を示す

ST：その他、送信側異常

⑥ 終了確認電文（受信側→起動側）

伝送の終了する時点で受信側受信件数を起動側へ送信する

データカウント（１）は受信済件数を示す

#### IV. 取引形態による使用フォーマット

レコードの種類	通常取引	量販店取引
AA 制御用電文（開始）	◎	◎
1 ファイルヘッダーレコード	◎	◎
2 伝票ヘッダーレコード	◎	◎
3 伝票ヘッダーオプションレコード	○	◎
4 明細行レコード	◎	◎
5 明細行オプションレコード（１）	○	◎
6 明細行オプションレコード（２）	×	◎
7 メッセージオプションレコード（１）	×	○
8 メッセージオプションレコード（２）	×	○
AA 制御用電文（終了）	◎	◎

◎印…必須    ○印…選択必須    ×印…不要



# V. レコード伝送イメージ

制御用電文（開始） J手順

1ファイル

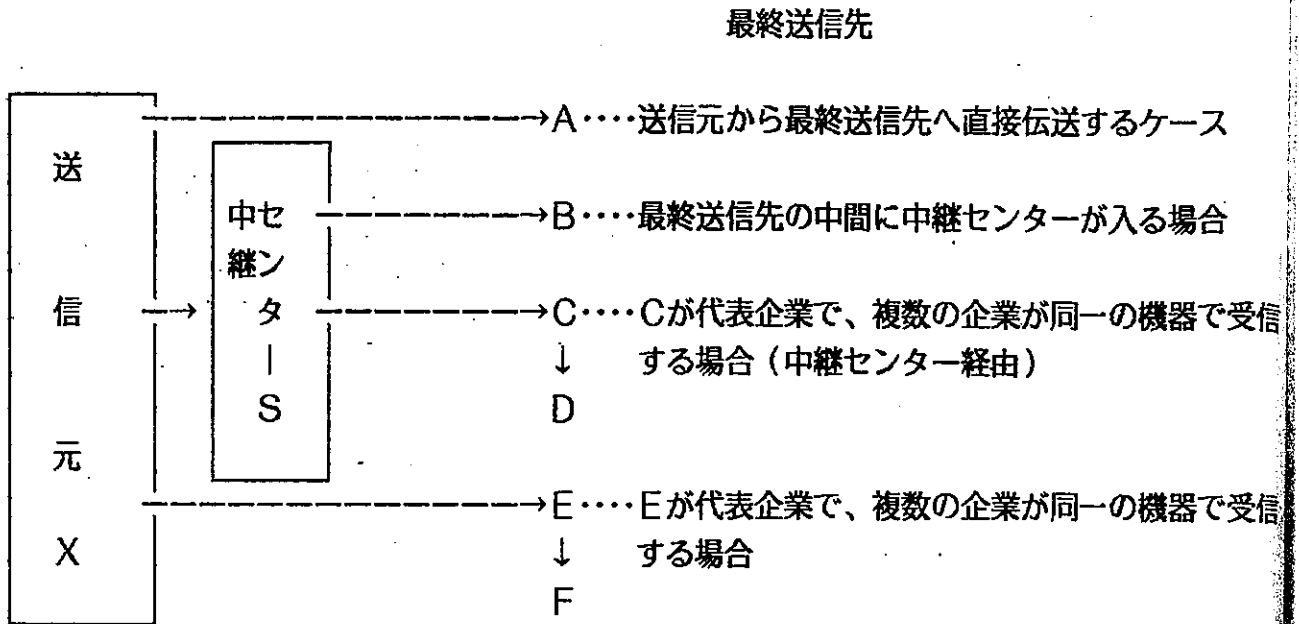
1	ファイルヘッダーレコード		
		1枚目伝票分データ	
2	伝票ヘッダーレコード		
3	伝票ヘッダーオプションレコード		
3	伝票ヘッダーオプションレコード		
4	明細行レコード		
5	明細行オプションレコード(1)		
4	明細行レコード		
5	明細行オプションレコード(1)		
			2枚目伝票分データ
2	伝票ヘッダーレコード		量 販 店 取 引
3	伝票ヘッダーオプションレコード		
3	伝票ヘッダーオプションレコード		
4	明細行レコード		
5	明細行オプションレコード(1)		
6	明細行オプションレコード(2)		
7	メッセージオプションレコード(1)		
8	メッセージオプションレコード(2)		
...			

1	ファイルヘッダーレコード
2	伝票ヘッダーレコード
...	

次のファイル

制御用電文（終了） J手順

## VI. 送信元、最終・直接送信先の関係



データ送信元	最終送信先	直接送信先
X	A	A
X *1 (X)	B (B)	S (B)
X *1 (X)	C (C)	S (C)
X *1 (X)	D (D)	S (C)
X	E	E
X	F	E

備考：\*1はXから情報中継センター、( )内は情報中継センターから送信する場合

## ス キ で受信 で受信 VII. 年号

フォーマット中の年号は量販店編集済のものを除き、全て西暦の下2桁とする

## VIII. 日本語の使い方

日本語に関しては、伝送制御手順の関係から現在は使用出来ないが、将来の使用に際してはJISコード、第一水準、第二水準の範囲とし、外字は使用しない

## IX. 使用条件およびフォーマット表中の条件欄

◎印…必須は必ず必要の意味

○印…選択必須は取引全般で必要に応じて使用する場合

△印…任意は特定商品や取扱い慣習等特定の取引に限定して使用する場合を表わす

## X. フォーマット用語の説明

No. ……項番

Content ……内容

Picture ……タイプと桁数

Length ……長さ

Description ……説明

## ○ 1 . 制御用電文（起動側受信用）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	ID	◎	X(02)	CH	2	センターアプリケーション識別子 'AA' 起動側がデータを取る
2	要求区分	◎	X(02)	CH	2	制御用電文の種類識別 '01' 開始要求電文 '02' 再送要求電文 '03' 終了要求電文 '90' 終了電文
3	伝送年月日	◎	X(06)	CH	6	西暦表示 (YYMMDD)
4	センターコード	◎	X(06)	CH	6	XXXX XX          ↓ ↓        センターアドレス センター企業コード
5	ステーションコード	◎	X(08)	CH	8	起動側企業コード 取引先コード 6桁 + ステーションアドレス 2桁
6	識別子	◎	X(06)	CH	6	パスワード
7	データ種類	◎	X(02)	CH	2	伝送データの種別 発注情報 '01' 固定
8	データカウント (1)	◎	9(06)	ZD	6	受信側の受信済件数または 送信側の送信済件数
9	データカウント (2)	◎	9(06)	ZD	6	送信側の当日送信全件数 要求区分 '90' で使用
10	処理区分	◎	X(02)	CH	2	'CC' : 通常 'NG' : パスワードエラー 'NO' : 送信ファイルなし 'ST' : その他送信側異常
11	Filler				40	

## ○ 2. 制御用電文（起動側発信用）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	ID	◎	X(02)	CH	2	センターアプリケーション識別子 'BB' 起動側がデータを送る
2	要求区分	◎	X(02)	CH	2	制御用電文の種類 '01' 開始要求電文 '02' 再送要求電文 '03' 終了要求電文 '10' 開始承認電文 '20' 終了確認電文 '90' 終了電文
3	伝送年月日	◎	X(06)	CH	6	西暦表示 (YYMMDD)
4	センターコード	◎	X(06)	CH	6	XXXX XX          ↓ ↓        センターアドレス センター企業コード
5	ステーションコード	◎	X(08)	CH	8	起動側企業コード 取引先コード 6桁 + ステーションアドレス 2桁
6	識別子	◎	X(06)	CH	6	パスワード
7	データ種類	◎	X(02)	CH	2	伝送データの種別 発注情報 '01' 固定
8	データカウント (1)	◎	9(06)	ZD	6	受信側の受信済件数または 送信側の送信済件数
9	データカウント (2)	◎	9(06)	ZD	6	送信側の今回送信全件数 要求区分 '90' で使用
10	処理区分	◎	X(02)	CH	2	'七七' : 通常 'NG' : パスワードエラー 'NO' : 送信ファイルなし 'ST' : その他受信側異常
11	Filler				40	

# 1. ファイルヘッダーレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(1)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	データ種別	◎	X(02)	CH	2	ファイルのデータ種類を表わす '01' 固定(発注)
4	データ作成日付	◎	X(06)	CH	6	発注企業がデータを発注ファイルに入力した日付(YY MM DD)
5	データ作成時刻	△	X(06)	CH	6	発注企業がデータを発注ファイルに入力した時刻(HH MM SS)
6	ファイルNo.	◎	X(02)	CH	2	同時送信時の複数ファイルや複数回送受信時の区別、問い合わせのKEY '01' よりスタート
7	データ処理日	◎	X(06)	CH	6	発注者のデータ処理日
8	受注者企業コード(受け手)	◎	X(12)	CH	12	データの宛先
9	データ送信元センターコード	◎	X(06)	CH	6	データを送信する企業のコード及びセンターのコード
10	*1 々 (予備)		X(02)	CH	2	予備
11	最終送信先コード	◎	X(06)	CH	6	データを受けとる最終の企業コード
12	*2 々 ステーションアドレス	◎	X(02)	CH	2	内容は任意
13	直接送信宛先企業コード	◎	X(06)	CH	6	中継センター等データの宛先の中間
14	*3 々 ステーションアドレス	◎	X(02)	CH	2	に位置付けられる企業のコード 内容は任意
15	発注企業コード(出し手)	◎	X(12)	CH	12	発注企業・照会部署コードで発注
16	々 照会部署コード(出し手)	◎	X(12)	CH	12	内容に関する問合せ先
17	発注企業名	◎	X(15)	CH	15	発注確認のためのカナ名
18	々 照会部署名	◎	X(10)	CH	10	々 照会部署確認のためのカナ
19	送信データ件数	△	9(06)	ZD	6	通常はJ手順制御電文を使用し この欄はM/T等の媒体に使用
20	レコードサイズ	◎	9(03)	ZD	3	'128' 固定
21	データ有無サイン	◎	X(01)	CH	1	7:通常 1:データ無し
22	備考	△	X(06)	CH	6	余白

## 1. ファイルヘッダーレコード

### 1-4 データ作成日付

年は西暦の下2桁

### 1-6 ファイルNo.

1制御電文中に複数ファイルの場合や、一日の送受信を複数回に分けて行なう時の区別に使用するが、単一ファイルや送受信が1回でも'01'は必須である

### 1-7 データ処理日

年は西暦の下2桁

### 1-9~10 データ送信元センターコード

XXXX XX XX

|            |    ↓  
|            ↓    予備  
↓            センターアドレス

センター企業コード（流通システム開発センターに登録）

### 1-11~12 最終送信先コード

データの最終宛先で内容は任意となっているが、混乱を防ぐ意味で流通システム開発センターに登録されている企業の場合は登録コードの使用が望ましい

### 1-13~14 直接送信宛先企業コード

データの直接送信宛先企業を表わすコードで内容は任意となっているが、情報中継センター等、流通システム開発センターに登録されている企業の場合は登録コードの使用が望ましい、また中間に他企業が入らぬ場合は最終送信先コードと同一になる

尚 \*1.\*2.\*3.に関しては（財）流通システム開発センター編纂の『標準伝送制御手順J-手順および標準データ・交換フォーマット』を参照の事

1-17~18 発注企業名・照会部署名

オンラインでデータ交換をする場合、データ発信場所とデータ作成場所は必ずしも一致しない、この様な状況下でトラブルが発生すると問い合わせ先が判別出来ないため、ここにデータ作成場所または問い合わせ先を示すカナ文字を表示するが、表現上15桁と10桁には区切らなくても良い

1-19 送信データ件数

この欄は磁気媒体等の交換時に、ファイルエンドレコード（レコード区分9）で使用し、ファイル中のデータ件数（ファイルエンドレコードも含める）を表示する  
尚、オンライン伝送時は制御電文のフィールドを使用する

No.
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15



## 2. 伝票ヘッダーレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Pic-ture	For-mat	Len-gth	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(2)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	データ区分	◎	X(01)	CH	1	データの区分を表す ㊦：通常発注 1：一斉出荷 2：量販店出荷
4	伝票番号	○	X(08)	CH	8	発注者における発注伝票番号(伝票単位につける番号)訂正時は元伝
5	発注日	◎	X(06)	CH	6	発注日(YY MM DD)
6	一次店コード	◎	X(12)	CH	12	統一コード制定がなければプライベート
7	二次店コード	○	X(12)	CH	12	トコードを使用
8	三次店コード	○	X(12)	CH	12	々
9	四次店コード(量販店取引先コード)	○	X(12)	CH	12	々 量販店は特殊
10	五次店コード(量販店社店コード)	○	X(12)	CH	12	々 量販店は特殊
11	納入日		X(06)	CH	6	双方の取決め(YY MM DD)
12	手形情報	△	X(01)	CH	1	手形関連取引情報 1：手形付 2：現金 3：後束手形 5：業務用手形 6：手形なし
13	倉直区分	△	X(01)	CH	1	1：倉入れ 2：直送
14	定期発注取消サイン	△	X(01)	CH	1	㊦：通常 1：取消し
15	備考1(納入希望時間)	△	X(04)	CH	4	(HH MM)

## 2. 伝票ヘッダーレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
16	量販店 伝票使用区分	○	X(01)	CH	1	チェーン統一 0：タイプ用 ターン 1： 6行(1号) アラウンド用 2： 9行(2号) 3：10行(3号) 4：20行(4号)
17	伝票 編集済発注日	○	X(06)	CH	6	編集済 (YY MM DD)
18	票 編集済納入日	○	X(06)	CH	6	々 々
19	出 伝票区分	○	X(02)	CH	2	JCA統一編集済伝票ヘッダー情報
20	力 分類コード	○	X(04)	CH	4	々 々
21	情 編集済専用伝票番号	○	X(11)	CH	11	々 々
22	報 配送便コード	○	X(03)	CH	3	々 々
23	備考2	△	X(02)	CH	2	任意使用

## 2 伝票ヘッダーレコード

### 2-4 伝票番号

発注者が発注単位のユニークな番号を付ける時に使用するが、発注番号を使用しない企業は項番2のデータシリアルNOと同一にする  
尚、データシリアルNOはゾーンデータに指定されているため、キャラクターに変換し左詰とする

### 2-5 発注日

年は西暦の下2桁とする

### 2-6~10 一次店~五次店コード欄の使い方

直送 : A卸B支店/C商店/Dスーパー/ㄗ/ㄗ

↓ ↓ ↓  
↓ ↓ A卸の届け先でC商店の請求先  
↓ A卸の請求先  
受注者の請求先

: A卸/B支店/C商店/Dスーパー/ㄗ

↓ ↓ ↓ ↓  
↓ ↓ ↓ A卸の届け先でC商店の請求先  
↓ ↓ A卸B支店の請求先  
↓ A卸の事業所  
受注者の請求先

倉入れ : A卸B支店/ㄗ/ㄗ/ㄗ/ㄗ

: A卸/B支店/ㄗ/ㄗ/ㄗ

直送・倉入れとも一次店欄にA卸の企業・事業所コード、二次店欄にA卸の請求先コードといった使い方と、一次店欄にA卸の企業コード、二次店欄にA卸の事業所コードを入れる使い方があり、いずれも発注者・受注者双方で打合わせの上使用する  
また、双方に取決められたコードの無い届先等に関しては、該当店コード欄に9~9をうめ、伝票ヘッダーオプションレコードを使用して店名情報を補完し、届先に関しては住所も同様とする

## 2-9~10 量販店取引の場合

量販店取引の場合、四次店欄に指定の量販店取引先コード、五次店欄に量販店社店コードを左詰で入れる

## 2-11 納入日

納入日に関しては発注者・受注者双方で事前に発注後の納入サイクルを取決め、所定の納入年月日をセットし、納入日が取決められない時はゼロで埋める  
尚、年は西暦の下2桁とする

## 2-16~22 量販店伝票出力情報

量販店から指定を受けた書式で伝票を発行するための情報で、発注者は書式に合せ編集済みデータを各フィールドに入れる、受注者はデータ内容に変更を加えてはならない

### 3. 伝票ヘッダーオプションレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(3)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	伝票ヘッダー参照No.	◎	X(01)	CH	1	伝票ヘッダーレコード項番No. 6 ~10に対応 1:一次店 2:二次店 3:三次店 4:四次店 5:五次店
4	社名、店名、取引先名	◎	X(25)	CH	25	社名、店名、取引先名のカナ文字
		○	X(15)	CH	15	日本語使用の際の予備欄
5	住所	◎	X(56)	CH	56	住所カナ表示
6	電話番号	△	X(12)	CH	12	Ex. ㊦03-XXXX-XXXX
7	予備	△	X(01)	CH	1	予備
8	取引先対応コード	△	X(12)	CH	12	伝票ヘッダーレコード項番No. 6 ~10に対応
9	日本語区分	◎	X(01)	CH	1	㊦:カナ文字 1:日本語

### 3 伝票ヘッダーオプションレコード

伝票ヘッダーオプションレコードは、伝票ヘッダーレコードの一次店コード～五次店コード欄にコード未設定の9～9を使用した時は必須である

#### 3-3 伝票ヘッダー参照No.

伝票ヘッダーレコードの一次店コード～五次店コードに対応させる

- 1：一次店
- 2：二次店
- 3：三次店
- 4：四次店
- 5：五次店

#### 3-4 社名、店名、取引先名

上記のカナ文字を25桁の範囲で表示する

次の15桁は日本語が利用可能時点の予備欄（J手順では伝送が出来ない）

#### 3-5 住所

届先の場合のみ住所カナを入れる（日本語は現在不可）

#### 3-6 電話番号

右詰、左ブランクで局番の間はハイホンでつなぐ

#### 3-9 日本語区分

項番4～5に対応

- 7：カナ文字
- 1：日本語

日本語使用の際はJISコード第一、第二水準の範囲とし外字は使用不可

## 4. 明細行レコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(4)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	伝票行No.	◎	X(02)	CH	2	伝票行No.
4	商品コード	◎	X(13)	CH	13	13桁で荷姿までを表わすが個装コ ード使用時は荷姿コードで補完する
5	荷姿コード	○	X(02)	CH	2	上記に準じて使用
6	入り数	◎	9(04)	ZD	4	発注単位に含まれる
7	数量	◎	9(04)	ZD	4	発注数量
8	単位	◎	X(01)	CH	1	数量単位を表わす 1：ケース 6：パレット パレットはビール業界限定仕様
9	量販店プライベート商品コード	○	X(15)	CH	15	オプション使用
10    16 2	上記No. 3~No. 9の 繰返し使用				41	
17    23 3	上記No. 3~No. 9の 繰返し使用				41	

## 4 明細行レコード

### 4-4 商品コード

商品コードは、統一コードが設定されている時はこれを使用し、未設定の場合は双方調整の上プライベートコードを使用する

また、新商品発売等、発注者・受注者双方で使用するコードが確認されていない時は、商品コード欄を9～9でうめて、明細行オプションレコード(1)で商品名を補足しなければならない

### 4-5 荷姿コード

商品コードが、JANコードのように個装コード(個の単位のコード)の場合は荷姿コードでその商品の物流単位を補足する

尚、荷姿コードの内容については双方で確認をする必要がある

### 4-6 入り数

1ケース中にある総バラ数で表示する

### 4-8 単位

数量単位で

0 : ml	5 : kg
1 : ケース	6 : パレット (ビール業界限定)
2 : ボール	7 : g
3 : ピース	8 : mg
4 : リザーブ済	9 : リットル

等の業界標準コードがあるが、受発注システムでは‘1’ケースを使用し、他の単位を使用する時は双方での打合わせが必要

尚、ケースをバンドでくくった‘梱’については、取扱いの方法を受発注者双方で確認をしないと混乱を招く恐れがあり、注意を要する

### 4-9 量販店プライベート商品コード

チェーンストア統一伝票(タイプ用、ターンアラウンド用)プリントの際使用する編集済データである



## 5. 明細行オプションレコード (1)

条件欄 ◎: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす (5)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	伝票行No.	◎	X(02)	CH	2	伝票行No. 無い行はブランク
4	商品名 (カナ26桁) (漢字19桁)	◎	X(26) X(12)	CH CH	26 12	商品名カナ表示 商品名予備 (日本語表示の時使用)
5	項番No. 3~4の繰返し使用				40	
6						
7	項番No. 3~4の繰返し使用				40	
8						
9	備考	△	X(02)	CH	2	
10	日本語区分	◎	X(01)	CH	1	㊦: カナ文字 1: 日本語

## 6. 明細行オプションレコード(2)

条件欄 ◎: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(6)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	伝票行No.	◎	X(02)	CH	2	明細行の伝票単位の位置付
4	編入数	◎	X(07)	CH	7	項目No. 4~12はチェーンスト
5	集ケース数	◎	X(05)	CH	5	ア統一伝票(タイプ用・ターンアラ
6	済数量単位	◎	X(03)	CH	3	ウンド用)発行のための編集済デー
7	量数量	◎	X(06)	CH	6	タである
8	販原単価	◎	X(08)	CH	8	
9	店売単価	◎	X(06)	CH	6	
10	デ原価金額	◎	X(09)	CH	9	
11	売価金額	◎	X(09)	CH	9	
12	タ備考 1	△	X(06)	CH	6	
13    22	上記No. 3~No. 12の 繰返し使用				61	
23	予備欄	△	X(01)	CH	1	

## 7. メッセージオプションレコード (1)

条件欄 ◎: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Pic-ture	For-mat	Len-gth	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす (7)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	チ A欄	○	X(04)	CH	4	項目No. 3~No. 13はチェー ンストアー統一伝票の際そのまま プリントする
4	エ B欄	○	X(04)	CH	4	
5	ー C欄	○	X(04)	CH	4	
6	ン D欄	○	X(30)	CH	30	
7	統 E欄	○	X(17)	CH	17	
8	一 F欄	○	X(17)	CH	17	
9	伝 G欄	○	X(17)	CH	17	
10	票 H欄	○	X(12)	CH	12	
11	備 I欄	○	X(04)	CH	4	
12	考 J欄	○	X(04)	CH	4	
13	欄 K欄	○	X(04)	CH	4	
14	予備欄	△	X(06)	CH	6	

## 8. メッセージオプションレコード (2)

No.	Content	条件	Pic-ture	For-mat	Len-gth	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす (8)
2	データシリアルNo.	◎	9(04)	ZD	4	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	チェーンストアー統一伝票L欄	○	X(22)	CH	22	
4	予備欄	△	X(101)	CH	101	

ファイル名		食品業界受発注標準データ				1. ファイルヘッダ-コード					
ファイルコード		ファイル構成				COPY登録集					
レコード長		128 byte		PRI-KEY		byte		SEC-KEY		byte	
ブロック長		byte		col~		col~		col~		col	



1	データ シリアル No.	9(4)	X(2)	2	データ 作成時刻	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
X	データ 作成日付	X(6)	X(6)	X(2)	データ 処理日	X(6)	X(12)	最終送信先 JOB:アドレス (受付け手)	直接送信先 JOB:アドレス (受付け手)	送信先 JOB:アドレス (受付け手)	発注企業コード (出し手)	X(12)	発注照会部署 コード (出し手)	X(15)	発注企業名			

18	発注照会部署名	19	送信 データ数	20	備考
X<(10)	128	9(6)	9(3)	X(6)	

10		20		30		40		50		60		70		80		90		100
----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	-----

10		20		30		40		50		60		70		80		90		100
----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	-----

ファイル名	食品業界受発注標準データ		2. 伝票ヘッダコード
ファイルコード	ファイル構成		COPY登録
レコード長	128 byte	PRI-KEY	byte
プロック長	byte	col~	col

1	18	19	20	21	22	23	9	8	7	6	5	4	3	2	17
X	9(4)	X	X(8)	X(6)	X(12)	X(12)	X(12)	X(12)	X(12)	X(12)	X(12)	X(12)	X(6)	X(4)	X(6)
データ	伝票番号	発注日	一次店コード	二次店コード	三次店コード	四次店コード	五次店コード	納入日	納入月	納入日	納入日	納入日	納入日	納入日	納入日
シリアル	伝票番号	発注日	一次店コード	二次店コード	三次店コード	四次店コード	五次店コード	納入日	納入月	納入日	納入日	納入日	納入日	納入日	納入日
区別	伝票番号	発注日	一次店コード	二次店コード	三次店コード	四次店コード	五次店コード	納入日	納入月	納入日	納入日	納入日	納入日	納入日	納入日
2															

18	19	20	21	22	23	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
X(6)	X(2)	X(4)	X(11)	X(3)	X(2)										
編集済	伝票番号	分類	編集済	伝票番号	備考										
納入日	伝票番号	分類	編集済	伝票番号	備考										
納入日	伝票番号	分類	編集済	伝票番号	備考										



ファイル名	食品業界受発注標準データ		3.伝票ヘッダオプションコード
ファイルコード	ファイル構成		COPY登録
レコード長	128 byte	PRI-KEY	byte SEC-KEY byte
ブロック長	byte	col~	col~ col



1	2	3	4	5
データ レコード 番号	データ レコード 番号	データ レコード 番号	データ レコード 番号	データ レコード 番号
X(4)	X(25)	X(15)	X(56)	X(56)
10	20	30	40	50
60	70	80	90	100

社名・店名・取引先名 (予備)

住所

6	7	8	9
電話番号	取引先対応コード	日本標準区分	
X(12)	X(12)	X	X
10	20	30	40
50	60	70	80
90	100		

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

ファイル名		食品業界受発注標準データ		4. 明細行レコード	
ファイルコード	ファイル構成			COPY登録	
レコード長	128 byte	PRI-KEY	byte	SEC-KEY	byte
プロック長	byte	col~	col	col~	col

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
データ シリアル 区分	店番号	店番号	商品コード	商品コード	数量	数量	数量	数量	店番号	商品コード	店番号	数量	数量	数量	数量	店番号	商品コード
X(4)	X(2)	X(2)	X(13)	X(2)	9(4)	9(4)	9(4)	X(15)	X(2)	X(13)	X(2)	9(4)	9(4)	9(4)	X(15)	X(2)	X(13)
10	20	20	40	40	30	30	40	40	50	50	60	70	70	80	80	90	100

19	20	21	22	23
店番号	数量	数量	数量	数量
X(2)	9(4)	9(4)	X(15)	X(15)
10	10	20	40	40

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

ファイル名	食品業界受発注標準データ		5. 明細行オプションコード(1)	
ファイルコード	ファイル構成	COPY登録		
レコード長	128 byte	PRI-KEY	byte	SEC-KEY
ブロック長	byte	col~	col	col



データ シリアル 番号	4	5	6	7	8
X(4)	X(24)	X(12)	X(17)	X(2)	X(26)
伝票行 NO.	商品名 (予備)	伝票行 NO.	商品名 (予備)	伝票行 NO.	商品名

備考	9	10
X(13)	X(13)	X(13)
備考	商品名 (予備)	備考

備考	10	11
X(13)	X(13)	X(13)
備考	備考	備考

備考	10	11	12
X(13)	X(13)	X(13)	X(13)
備考	備考	備考	備考



ファイル名		食品業界受発注標準データ		6. 明細行オプションコード(2)	
ファイルコード	ファイル構成		COPY登録		
レコード長	128	byte	PRI-KEY	byte	SEC-KEY
プロック長	byte	col~	col~	col~	col

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
レコード	ファイル	伝票行	入数	ケース数	数量	原価金額	原価金額	売単価	原価金額	売価金額	備考1	伝票行	入数	ケース数	数量	数量	原価金額	売価金額
X(4)	X(2)	X(2)	X(7)	X(5)	X(6)	X(8)	X(9)	X(6)	X(9)	X(9)	X(6)	X(2)	X(7)	X(5)	X(3)	X(6)	X(8)	X(6)
10	20	20	10	20	30	40	50	40	50	60	60	70	70	80	80	90	90	100

20	21	22	23
原価金額	売価金額	備考2	子備
X(9)	X(9)	X(6)	X
10	20	30	40

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

ファイル名	食品業界受発注標準データ		7. 地-ジ-ジ-ジ-ジ-コード(1)	
ファイルコード	ファイル構成	COPY登録		
レコード長	128 byte	PRI-KEY	byte	byte
ブロック長	byte	col~	col~	col

1	2	3	4	5	6	7	8	9
データ シリアル No.	A欄	B欄	C欄	D欄		E欄	F欄	G欄
X(4)	X(4)	X(4)	X(4)	X(30)	X(17)	X(17)	X(17)	X(17)

10	11	12	13	14
H欄	I欄	J欄	K欄	(予備)
X(12)	X(6)	X(4)	X(4)	X(6)

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

ファイル名	食品業界受発注標準データ		8. ヌルジョブシヨソコド(2)
ファイルコード	ファイル構成		COPY登録
レコード長	128 byte	PRI-KEY	byte SEC-KEY byte
ブロック長	byte	col~	col~ col



1	2	3	4
データ レコード NO.	連続-伝票備考欄 L 欄		(予 備)
X(4)	X(22)	X(101)	

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

\*\*\*\*\*  
\* \* \* \* \*  
\* 出荷案内システム \*  
\* \* \* \* \*  
\*\*\*\*\*

## I. レコード長／テキスト長

- 1 レコード長-----128バイト
- 2 テキスト長-----J手順では128バイトと256バイトがあるが、レスポンス等を考えると256バイトが望ましい。

## II. レコードの種類

- 1 ファイルヘッダーレコード（必須）-----レコード区分 1  
各ファイルの先頭に付けられ、ファイルの送信先、提供先の情報を入れ、日付等該当送信ファイルの属性を明確にするためのレコードである。  
基本は1ファイルに1件作成されるが、条件によっては複数個もありうる。
- 2 伝票ヘッダーレコード（必須）-----レコード区分 2  
1伝票分の明細行を除く出荷情報が含まれる。
- 3 伝票ヘッダーオプションレコード（1）（任意）-----レコード区分 3  
伝票ヘッダーレコードを補足するレコードで、取引先名・住所が含まれる。
- 4 伝票ヘッダーオプションレコード（2）（任意）-----レコード区分 4  
伝票ヘッダーレコードを補足するレコードで、伝票上の摘要・備考が含まれる。
- 5 明細行レコード（必須）-----レコード区分 5  
伝票の商品明細を表わすレコードである。
- 6 明細オプションレコード（任意）-----レコード区分 6  
明細行レコードを補足するレコードで、専用納品伝票情報・割戻しの情報が含まれる
- 7 エンドレコード（必須）-----レコード区分 8  
データの終了を表わすレコード（1ファイルヘッダーに1エンドレコード）
- 8 センターレコード（選択必須）-----レコード区分 9  
中継センターを利用した場合にセンターで造成されるレコードであり、データの受渡しのチェックに使用される。

### Ⅲ. レコード作成イメージ

		1ファイル
1. ファイルヘッダーレコード		
		1枚目の伝票データ
2. 伝票ヘッダーレコード		
3. 伝票ヘッダーオプションレコード(1)		
4. 伝票ヘッダーオプションレコード(2)		
5. 明細行レコード		
6. 明細行オプションレコード		
5. 明細行レコード		
6. 明細行オプションレコード		
		2枚目の伝票データ
2. 伝票ヘッダーレコード		
3. 伝票ヘッダーオプションレコード(1)		
4. 伝票ヘッダーオプションレコード(2)		
5. 明細行レコード		
6. 明細行オプションレコード		
5. 明細行レコード		
6. 明細行オプションレコード		
・		
・		
・		
・		
8. エンドレコード		
		次のファイル
1. ファイルヘッダーレコード		
2. 伝票ヘッダーレコード		
・		
・		
8. エンドレコード		
9. センターレコード		

## 1. ファイルヘッダーレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(1)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	データ種別	◎	X(02)	CH	2	ファイルのデータ種類を表わす SDP: '04' DDP: '06'
4	データ作成日付	◎	X(06)	CH	6	提供企業がデータをファイルに入力した日付(西暦でyymdd)
5	データ作成時刻	△	X(06)	CH	6	提供企業がデータをファイルに入力した時刻(hhmmss)
6	ファイルNo.	◎	X(02)	CH	2	同時送信時の複数ファイルや複数回送受信時の区別、問い合わせのkey '01' からスタート
7	データ処理日	◎	X(06)	CH	6	提供者のデータ処理日
8	利用者企業コード(受け手)	◎	X(12)	CH	12	データの宛先
9	データ送信元センターコード	◎	X(06)	CH	6	データを送信する企業のコード及びセンターのコード
10	々 (予備)		X(02)	CH	2	予備
11	最終送信先コード	◎	X(06)	CH	6	データを受け取る最終の企業コード
12	々 ステーションアドレス	◎	X(02)	CH	2	内容は任意
13	直接送信宛先企業コード	○	X(06)	CH	6	中継センター等データの宛先の間際に位置付けられる企業のコード
14	々 ステーションアドレス	○	X(02)	CH	2	内容は任意
15	提供企業コード	◎	X(12)	CH	12	提供企業のコード
16	提供企業事業所コード	◎	X(12)	CH	12	提供企業の取引発生事業所コード
17	提供企業名	◎	X(15)	CH	15	出荷内容確認の為のカナ名
18	々 照会事業所名	◎	X(10)	CH	10	々
19	送信データ件数	◎	9(06)	ZD	6	レコード件数(ファイルヘッダー～エンドレコード迄)
20	レコードサイズ	◎	9(03)	ZD	3	'128' 固定
21	データ有無サイン	◎	X(01)	CH	1	△:通常 1:データ無し
22	余白	△	X(03)	CH	3	

## 1. ファイルヘッダーレコード

1-4~5 データ作成日付・時刻

中継センターを経由する場合はセンターにてセットし直す。

1-2 データシリアルNo.

中継センターを経由する場合はセンターにて振り直す。

1-17~18 提供企業名・照会事業所名

15桁と10桁に区切らなくとも良い。

又、1提供企業に複数発生する場合もある。



## 2. 伝票ヘッダーレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Discription
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(2)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位 で1番より付番
3	出荷区分	◎	X(02)	CH	2	入出荷を表わすコード
4	メーカー計上日	◎	X(06)	CH	6	提供者がデータを自社計上した日付 (yymmdd)
5	出荷月日	◎	X(06)	CH	6	・出荷： 実出荷日 ・返品： 着荷日、又は返品計上日 ・訂正： 元伝票(出荷)の日付 又は訂正計上日 (yymmdd)
6	出荷No.	◎	X(08)	CH	8	・出荷： 個々の伝票を表わすNo. ・訂正： 元伝票のNo.、又は訂正伝 票No.
7	補助伝票No.	○	X(08)	CH	8	・伝票上で出荷No.以外に有用なNo.が 有るとき
8	一次店コード	◎	X(12)	CH	12	統一コードの制定がなければプライ ベートコードを使用
9	二次店コード	◎	X(12)	CH	12	々
10	三次店コード	○	X(12)	CH	12	々
11	四次店コード	○	X(12)	CH	12	々
12	五次店コード	○	X(12)	CH	12	々
13	取引先コード区分(一次店)	◎	X(01)	CH	1	△：統一コード 1：自社コード
14	々(二次店)	◎	X(01)	CH	1	々
15	々(三次店)	○	X(01)	CH	1	々
16	々(四次店)	○	X(01)	CH	1	々
17	々(五次店)	○	X(01)	CH	1	々
18	手形情報	○	X(01)	CH	1	手形関連取引情報 1：手形付 2：現金 3：後手手形 5：業務用手形 6：手形なし

## 2. 伝票ヘッダーレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
19	倉直区分	◎	X(01)	CH	1	1：一次店倉入 2：小配 3：二次店倉入
20	配送形態	○	X(01)	CH	1	0：直送形式の倉入 1：倉入形式の直送 2：届け先あり
21	一斉区分	○	X(01)	CH	1	△：通常出荷 1：一斉出荷
22	積送品区分	○	X(01)	CH	1	0：通常 1：積送品 2：翌締めまわし積送品
23	SDP以外区分	◎	X(01)	CH	1	DDP（買掛金照合用） 0：SDPできたデータ 1：非SDPデータ 2：前残請求分
24	集計明細区分	○	X(01)	CH	1	DDP（買掛金照合用） △：明細データ 1：集計データ
25	ルートセールス	○	X(01)	CH	1	△：通常出荷 1：ルートセールス
26	直配料	○	X(01)	CH	1	△：対象外 1：直送運賃
27	余白		X(16)	CH	16	

2 伝票ヘッダーレコード

2-3 出荷区分

・上1桁 0: 出荷 1: 戻入  
・下1桁 0: 通常 3: 帳合変更  
1: 取消 4: 持ち戻り  
2: 訂正 9: 当該締以前の訂正

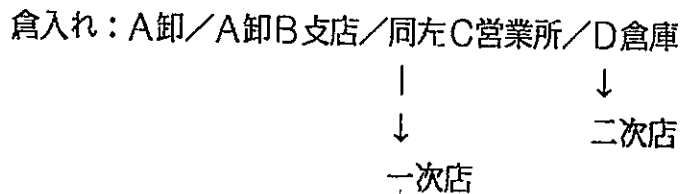
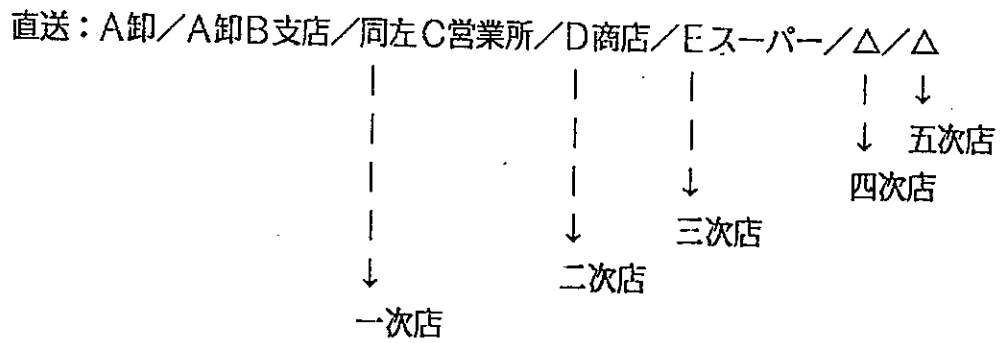
(例) 

00: 通常出荷	10: 戻入
11: 同取消	01: 同取消

(使用例)

- ①. 通常出荷の場合の出荷区分----- '00'
- ②. 上記取消 " ----- '11'
- ③. ①に対する訂正の出荷区分----- '02'

8~12 一次店~五次店のコードの入かた



### 3. 伝票ヘッダーオプションレコード(1)

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Pic-ture	For-mat	Len-gth	Discription
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(3)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	伝票ヘッダー参照No.	◎	X(01)	CH	1	伝票ヘッダーレコード項番No.8～12に対応 1：一次店 2：二次店 3：三次店 4：四次店 5：五次店
4	社名・店名・取引先名	◎	X(25)	CH	25	社名・店名・取引先名のカナ文字
		○	X(15)	CH	15	日本語使用の際の予備欄
5	住所	◎	X(56)	CH	56	住所カナ表示
6	取引先対応コード	△	X(12)	CH	12	伝票ヘッダーレコード項番No.8～12に対応
7	日本語区分	◎	X(01)	CH	1	項番4～5に対応 △：カナ文字 1：日本語
8	余白		X(10)	CH	10	

#### 4. 伝票ヘッダーオプションレコード(2)

条件欄 ◎:必須 ○:選択必須 △:任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(4)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	メッセージ	○	X(30)	CH	30	伝票上の摘要欄、備考欄等に表示されるメッセージ情報
4	余白		X(90)	CH	90	

## 5. 明細行レコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(5)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	伝票行No.	◎	X(02)	CH	2	伝票行No.
4	商品コード	◎	X(13)	CH	13	13桁で荷姿までを表わすが個装コード使用時は荷姿コードで補完する
5	荷姿コード	○	X(02)	CH	2	上記に準じて使用
6	商品名	◎	X(26) X(12)	CH CH	26 12	商品名カナ表示 商品名予備(日本語表示の時使用)
7	入数	◎	9(04)	ZD	4	夫々の単位に含まれる個数
8	数量	◎	S9(05)	ZD	5	数量の総バラ表示は行なわず、数量単位の異なる構成で出荷された場合(例、5ケースと6本)は2データとする。
9	単位	◎	X(01)	CH	1	数量単位を表わす 1：ケース 2：ボール 3：バラ 5：キログラム 7：グラム 8：ミリグラム 9：リットル
10	生販単価	◎	9(7)V2	ZD	9	提供者が入れる提供者の販売単価
11	価格区分	◎	X(01)	CH	1	△：通常 1：特別単価 2：旧値
12	単価使用区分	◎	X(01)	CH	1	△：切り捨て 1：切り上げ 2：四捨五入
13	卸売単価	○	9(7)V2	ZD	9	標準卸売単価
14	請求締日	◎	X(04)	CH	4	提供企業の請求締め最終月日 休日を無視した日付で可 (例、旬締め：10, 20, 30)
15	請求口座	◎	X(04)	CH	4	提供企業が設定の請求口座コード

## 5. 明細行レコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
16	景品割戻区分	◎	X(01)	CH	1	1：景品付出荷1（一般） 2：景品付出荷2（特殊） 3：景品 4：見本 7：割戻
17	特殊コード	○	X(01)	CH	1	特定メーカー固有のコード 4：輸入酒 5：冷食
18	内景品数量	○	9(02)	ZD	2	項番8の数量が景品の数量も含む場合は景品のみの数量を表示
19	発注No.	○	X(08)	CH	8	発注者における発注No.
20	メーカー商品分類	○	X(03)	CH	3	酒類の種・級（度数）を表わす
21	エラー区分	○	X(01)	CH	1	中継センターを利用する場合に生じるエラー
22	日本語区分	○	X(01)	CH	1	項番6に対応 △：カナ文字 1：日本語
23	余白		X(10)	CH	10	

5. 明細行レコード

5-16 景品・割戻し区分

1. 景品付出荷（一般）

割戻し対象景品付出荷

2. 景品付出荷（特殊）

割戻し対象外景品付出荷



## 6. 明細行オプションレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(6)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	伝票行No.	◎	X(02)	CH	2	伝票行No.
4	割戻区分(1)	○	X(01)	CH	1	割戻しの条件区分
5	割戻基準(1)	○	X(01)	CH	1	△：割戻率 1：割戻金額
6	割戻金額(1)	○	S9(06)	ZD	6	割戻率と兼用 EX. '050000' は、5%
7	割戻区分(2)	○	X(01)	CH	1	項番4と同じ
8	割戻基準(2)	○	X(01)	CH	1	項番5と同じ
9	割戻金額(2)	○	S9(06)	ZD	6	項番6と同じ
10	専用伝票No.	○	X(11)	CH	11	チェーン納品伝票のNo.
11	伝票区分	○	X(02)	CH	2	々 区分
12	伝票分類コード	○	X(04)	CH	4	々 分類コード
13	余白		X(05)	CH	5	
14    24	上記No.3~13の 繰返し使用				40	
25    35	上記No.3~13の 繰返し使用				40	

## 7. エンドレコード

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(8)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位 で1番より付番
3	レコード件数	◎	9(06)	ZD	6	明細レコードの商品数
4	生販金額合計	◎	9(11)	ZD	11	々 生販金額合計 (数量×生販単価)
5	余白		X(103)	CH	103	

## 8. センターレコード

条件欄 ◎:必須 ○:選択必須 △:任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす(9)
2	データシリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo.ファイルヘッダー単位 で1番より付番
3	レコード件数	◎	9(06)	ZD	6	全レコードの件数

出荷案内データーフォーマット

《ファイルヘッダレコード》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 作成日 YYMMDD X(6)	デ-9 利用店企業コード X(12)	デ-9 最速通信元 コード X(6)	デ-9 提供企業コード X(12)	デ-9 提供企業事業所コード X(12)	デ-9 提供企業名 X(15)	デ-9 提供企業住所 X(10)	デ-9 通信件数 9(6)	デ-9 余白 9(3)
------------------------	------------------------------	--------------------------	-----------------------------	-------------------------	----------------------------	-----------------------	------------------------	---------------------	-------------------

《伝票ヘッダレコード》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 出荷日 YYMMDD X(6)	デ-9 出荷No. X(8)	デ-9 1次店コード X(12)	デ-9 2次店コード X(12)	デ-9 3次店コード X(12)	デ-9 4次店コード X(12)	デ-9 5次店コード X(12)	デ-9 余白 X(16)
------------------------	------------------------------	----------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	--------------------

《伝票ヘッダオプションレコード(1)》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 社名・店名・取引先名 日本語使用の予備欄 X(15)	デ-9 住所 X(50)	デ-9 取引先 対心コード X(12)	デ-9 余白 X(10)
------------------------	---	--------------------	------------------------------	--------------------

《伝票ヘッダオプションレコード(2)》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 メッセージ X(30)	デ-9 余白 X(10)
------------------------	-----------------------	--------------------

《明細行レコード》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 商品コード X(13)	デ-9 商品名 X(25)	デ-9 数量 9(4)	デ-9 生販単価 9(7)M(2)	デ-9 卸売単価 9(7)M(2)	デ-9 請求請求 締日口座 X(4)	デ-9 巻注No. X(8)	デ-9 商品分類 X(10)	デ-9 余白 X(10)
------------------------	-----------------------	---------------------	-------------------	-------------------------	-------------------------	-----------------------------	----------------------	----------------------	--------------------

《明細行オプションレコード》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 割戻金額 S(6)	デ-9 割戻金額 S(6)	デ-9 専用伝票No X(11)	デ-9 分類コード X(4)	デ-9 余白 X(5)	デ-9 割戻金額 S(6)	デ-9 割戻金額 S(6)	デ-9 専用伝票No X(11)	デ-9 分類 X(4)	デ-9 余白 X(5)
------------------------	---------------------	---------------------	------------------------	----------------------	-------------------	---------------------	---------------------	------------------------	-------------------	-------------------

《インデントレコード》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 レコード 件数 9(6)	デ-9 生販金額合計 9(11)	デ-9 余白 X(10)	デ-9 余白 X(10)
------------------------	---------------------------	------------------------	--------------------	--------------------

《センターレコード》

デ-9 シリアルNo. 9(7)	デ-9 レコード 件数 9(6)	デ-9 余白 X(11)	デ-9 余白 X(11)	デ-9 余白 X(11)
------------------------	---------------------------	--------------------	--------------------	--------------------

\*\*\*\*\*  
\*  
\*  
\* 販売実績報告システム \*  
\*  
\*  
\*\*\*\*\*

## I . レコード長 / テキスト長

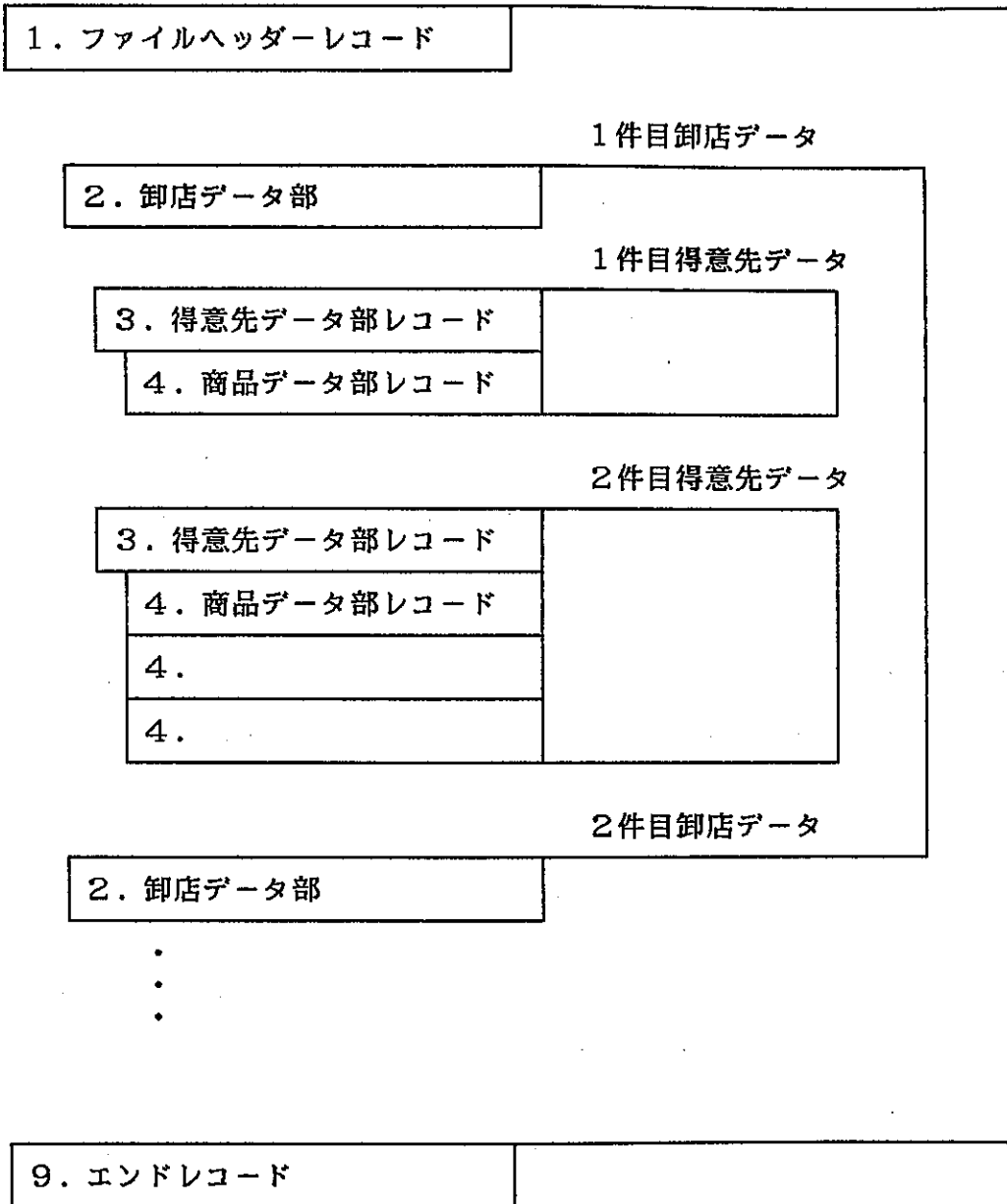
- 1 レコード長 ..... 128バイト
- 2 テキスト長 ..... 128バイトと256バイト (単純に128バイト×2) があるが、J手順に依るオンラインでのデータ交換の場合はレスポンス等を考えると256バイトが望ましい

## II . レコードの種類

- 1 ファイルヘッダーレコード (オンラインの場合は必須) ..... レコード区分 "1"  
各ファイルの先頭に付けられ、ファイルの送信先の情報を入れ、日付等該当送信ファイルの属性を明確にするためのレコードである  
基本は1ファイルに1件作成されるが、条件によっては複数個もありうる
- 2 卸店データ部レコード (必須) ..... レコード区分 "2"  
1ファイルの中には、何件かの卸店出先単位のパデータが含まれる場合が多い
- 3 得意先データ部レコード (必須) ..... レコード区分 "3"  
卸店の取引先(倉出し先)情報を店舗別に表わすレコードである
- 4 商品データ部レコード (必須) ..... レコード区分 "4"  
倉出し商品の明細を表わすレコードである
- 5 エンドレコード (オンラインの場合は必須) ..... レコード区分 "9"  
データの終了を表わすレコードで、データ件数にはこのレコードも含む

### III. レコード作成イメージ

1ファイル

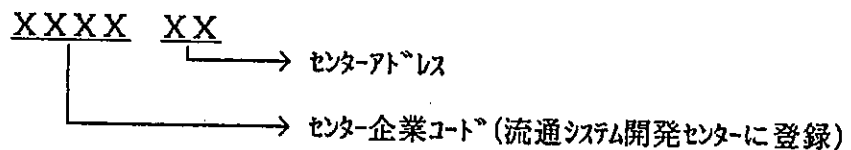


# 1. ファイルヘッダーレコード

(条件欄) ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	◎	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす "1" 固定
2	データリアルNo.	◎	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー単位で1番より付番
3	データ種別	◎	X(02)	CH	2	ファイルのデータ種類を表わす "08" 固定 (販売実績報告)
4	データ作成日付	◎	X(06)	CH	6	データ提供企業が提供データファイルを作成した日付 (西暦で YY MM DD)
5	データ作成時刻	△	X(06)	CH	6	データ提供企業が提供データファイルを作成した時刻 (HH MM SS)
6	データ送信先 センターコード (注1)	◎	X(06)	CH	6	データを送信する企業のコード及びセンターのコード
7	予備		X(02)	CH	2	予備
8	最終送信先 コード	◎	X(06)	CH	6	データを受けとる最終の企業のコード
9	ステーションアドレス		X(02)	CH	2	内容は任意
10	直接送信先 コード	◎	X(06)	CH	6	中継センター等データの宛先の間際に位置付けられる企業のコード
11	ステーションアドレス		X(02)	CH	2	内容は任意
12	提供元企業コード	◎	X(12)	CH	12	データ提供企業、照会部署コードで内容に関する問い合わせ先
13	レコードサイズ	◎	9(03)	ZD	3	"128" 固定
14	余白	△	X(67)	CH	67	余白

(注1) データ送信先センターコード





## 2. 卸店データ部レコード

(条件欄) ●: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	●	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす "2" 固定
2	データシリアルNO.	●	9(07)	ZD	7	データ通しNO.ファイルヘッダ-単位で1番より付番
3	メーカー企業コード	△	X(05)	CH	5	左詰め 残余白
4	メーカー支店コード	△	X(02)	CH	2	余白
5	該当月	●	X(04)	CH	4	西暦 (年月)
6	卸店コード	●	X(12)	CH	12	卸店組織コード(企業・支店・課) 左詰め
7	卸店・組織名称	●	X(40)	CH	40	卸店企業及び組織名称
8	余白	△	X(57)	CH	57	余白

### 3. 得意先データ部レコード

(条件欄) ○ : 必須    ◯ : 選択必須    △ : 任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	○	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす "3" 固定
2	データシリアルNo.	○	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダ-単位で1番より付番
3	取引先コード区分	○	X(01)	CH	1	"1" : 取引先コードが卸店独自のコード "2" : " " が業界の統一コード
4	取引先コード	○	X(12)	CH	12	左詰め 残 余白
5	取引先名	○	X(25)	CH	25	取引先名称 左詰め 残 余白
6	予備	△	X(15)	CH	15	余白 漢字表現の場合、取引先名と共用して使用
7	取引先住所	○	X(40)	CH	40	卸店で使用している取引先の住所か 左詰め 残 余白 40桁を越える場合左側40桁、町名 番地迄
8	予備	△	X(16)	CH	16	余白 漢字表現の場合、取引先住所と共用して使用
9	余白	△	X(10)	CH	10	余白
10	日本語区分	○	X(01)	CH	1	" " : かな表現 (No. 5.7) "1" : 漢字表現 (No. 5.6.7.8)

## 4. 商品データ部レコード

(条件欄) ○：必須    ◯：選択必須    △：任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レポート区分	○	X(01)	CH	1	レポートの種類を表わす "4" 固定
2	データシリアルNo.	○	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダ-単位で1番より付番
3	納品日	○	X(06)	CH	6	実際の納品日 (西暦 年 月 日)
4	倉出・合計区分	○	X(01)	CH	1	"0" : 倉出+直送 "1" : 倉出のみ "2" : 直送のみ
5	待売区分	◯	X(01)	CH	1	"0" : 分類不能 "1" : 定番納品 "2" : 特売納品
6	商品コード区分	○	X(01)	CH	1	"1" : 商品コードが卸店独自のコード "2" :     "            業界の統一コード
7	商品コード	○	X(13)	CH	13	卸店で使用しているコード 左詰め 残 余白
	荷姿コード	○	X(02)	CH	2	商品荷姿コード
8	商品名	○	X(26)	CH	26	卸店で使用している名称が 左詰め 残 余白
9	予備	△	X(12)	CH	12	余白 漢字表現の場合、商品名と共用して 使用
10	ケース当たり、入り数	○	9(04)	ZD	4	ケース当たりの個数
11	ケース数	○	S9(07)	ZD	7	ケース数の値
12	個数	○	S9(07)	ZD	7	個数の値
13	仕入単価区分	◯	X(01)	CH	1	"1" : 仕入単価の値がケース当たり "3" :     "            個当たり
14	仕入単価	◯	9(7)V2	CH	9	標準仕入単価 (小数第3位切り捨て)
15	余白	△	X(29)	CH	29	余白
16	日本語区分	○	X(01)	CH	1	" " : カ表現 (No. 8) "1" : 漢字表現 (No. 8.9)

## 5. エンドレコード

(条件欄) ●: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Picture	Format	Length	Description
1	レコード区分	●	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす "9" 固定
2	データリアルNo.	●	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダ-単位で1番より付番
3	レコード件数	●	9(06)	ZD	6	ファイルの中に含まれるレコード件数 (イントレコードも含む)
4	余白	△	X(114)	CH	114	余白

ページ 1/3

ライブラリー名	プロトタイプ7777	年	月	日	番	承認	発行	登録番号
販売実績(含)取扱標準データ	65							参照番号
ファイル名	レコード・サイズ							作成者
	128 CH							

### レコード レイアウト

#### 1. ファイルヘッダレコード

フィールド名	データ作成	データ送信	直接送信	データ送信元	レコード
シンボル	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻
データ形式	X(7)	X(8)	X(8)	X(12)	X(7)

余白

フィールド名	データ送信	直接送信	データ送信元	企業コード	レコード
シンボル	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻	シリアルNo. 日付時刻
データ形式	X(7)	X(8)	X(8)	X(12)	X(7)

#### 2. 卸店データ部レコード

フィールド名	メーカー	該当	卸店組織コード	卸店組織名称	余白
シンボル	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード
データ形式	X(7)	X(5)	X(12)	X(40)	X(50)

フィールド名	メーカー	該当	卸店組織コード	卸店組織名称	余白
シンボル	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード	シリアルNo. 企業コード
データ形式	X(7)	X(5)	X(12)	X(40)	X(50)

レコード レイアウト

3. 得意先データ部レコード

プライマリ名 販売実績(株) 株式会社 藤原 隆夫	7ロウキナン: 77777	年月日	帳	承認	印刷	担当	登録番号
ファイル名 ファイル名(10)	コード・レイク	65					参照番号
128 CH	その他						作成者

フィールド名	得意先コード	取引先名称	予備	取引先住所
シンボル	9(7)	X(12)	X(15)	X(40)
データ形式	X(12)	X(15)	X(15)	X(40)

フィールド名	予備	余白
シンボル	X(16)	X(10)
データ形式	X(16)	X(10)

4. 商品データ部レコード

フィールド名	商品コード	商品名称	予備	ケース数	個数	仕入単価
シンボル	9(7)	X(26)	X(12)	9(9)	139(7)	9(7)179(2)
データ形式	X(7)	X(26)	X(12)	9(9)	139(7)	9(7)179(2)

フィールド名	余白
シンボル	X(29)
データ形式	X(29)

レコード レイアウト

サイト	お問い合わせ:70777	年	月	日	版	申込	計画	登録番号
販売実績倉庫標準入力	65							登録番号
ファイル名	レコードサイズ	その値						作成者
	128 CH							

5. エントレコード

フィールド名	コード	余白		
フィールド名	行数			
データ形式	X(7)	X(19)		

A

① ② ③

197

フィールド名			
フィールド名			
データ形式			

検討企業一覧表：

(1) 卸店
① ㈱小網
② ㈱小泉商店
③ 国分㈱
④ 中泉㈱
⑤ 西野商事㈱
⑥ 日本酒類販売㈱
⑦ ㈱広屋
⑧ ㈱升喜
⑨ ㈱明治屋
⑩ ㈱菱食
(2) メーカー
① 味の素㈱
② 味の素ゼネラルフーズ㈱
③ キッコーマン㈱
④ キューピー㈱
⑤ キリンビール㈱
⑥ サントリー㈱
⑦ 日清製油㈱
⑧ ハウス食品工業㈱
⑨ 雪印乳業㈱